とうかい



2026年3月16日　NO.687

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会　広報部
〒460-0018　名古屋市中区門前町1番23号
東海教区教務所内
TEL 052-321-0028　FAX 052-332-4097
e-mail　info@tokai-hongwanji.net

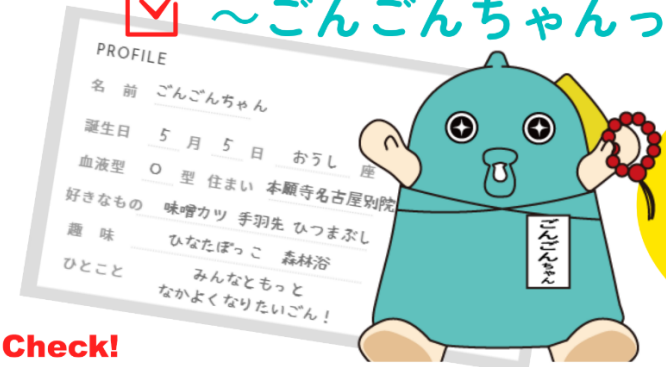
※今号は記事レイアウトの都合により、通常とは異なる誌面構成となっております

ごんごんちゃんの活躍

西別院の愛すべきマスコットキャラ、ごんごんちゃん
今回は彼の活躍についてお伝えいたします。

Check!

～ごんごんちゃんって何者？？～



平成２３年に誕生したごんごんちゃん。
きゅるんとした瞳と、ずんぐりとしたボディが魅力的！
色んなイベントに参加してきたんだよ！

Check!

みんな知ってた？貸し出しもできるんだよ！

桑名組善徳寺様 稚児行列に参加！



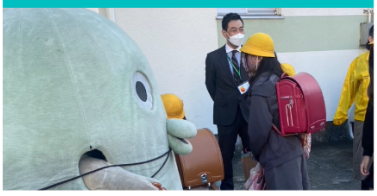
僕をいろんなところに連れてってほしいごん！

東別院 盆踊りに参加！

お東さんにお参り！ちょっと緊張するゴン★



松原小学校挨拶運動に参加！



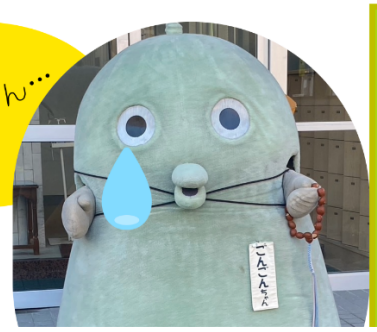
おはよー！元気いっぱい頑張るごん★

貸し出しのお申し込みはこちらから！ダウンロードして送ってね！

Check!

たくさん頑張ってきたぼくだけど・・・

助けてほしいごん…



新調の為寄付募る

うまれて10年。
彼のカラダにはサビの箇所が著しく見えるようになってきたので、お肌のケア（新調）が必要である。
ご協力頂ける方は
担当：安藤（昭）までお問い合わせください。

Contents

ごんごんちゃん	P1
新任布教使座談会	P2.5
千人聲明	P3.4
声/書棚/編集後記	P6

「新任布教使座談会」

昨年度から中央仏教学院研究科に教学・伝道課程が設置されました。この課程の卒業生には布教使課程共通二次試験の受験資格が付与されます。これによって、布教使をめざすときにこれまでより多くの選択肢があるようになりました。そこでこの度、当教区にゆかりのある昨年度中央仏教学院教学・伝道コースを卒業生と、これまで多くの布教使を輩出してきた伝道院（布教使課程Ａコース）の修了生にお集まりいただき、それぞれの学びの時間がどのようなものであったか、また今後み教えをどのように伝えていきたいか座談会を開きました。その様子を紙面をお借りして紹介いたします。

左から１人目　土岐授樹　名古屋別院・東海教区教務所勤務
中央仏教学院・それまでも中仏にいたことがあるので、環境もある程度分かっていたし、引き続き教えてもらいたい先生もいたので。

左より２人目　西村和　名古屋組法光寺
伝道院・自分が通う前年に伝道院の夜座にお参りしてそこで当時の受講生がされていたご法話が素晴らしく驚きと目標をもらったから。

座談会の参加メンバー
お名前・所属寺
それぞれの課程と選んだ理由



中央　山田教洋　三重組西勝寺
中央仏教学院・両親の勧めもあって勉強しようと思ったが、その時には伝道院の願書の締切も過ぎていたので。

右から２人目　小林由悟　勢南組善覚寺
伝道院・先輩たちから布教使を目指すなら伝道院と聞いていたり、ほったらかしだと勉強しないので全寮制の方がいいと思ったから。

聞き手　加藤学　桑名組善徳寺（伝道院指導員・広報部員）

加藤学(以下加)：本日はお集まりいただきありがとうございます。早速ですが、それぞれの課程の中で印象的な講義やカリキュラムはありましたか？

小林(以下小)：入る前は意識していませんでしたが、中期以降の社会問題の講義が勉強になりました。

土岐(以下土)：『法座をひらく』という講義で、受講生が企画を考えて実施したことが印象に残っています。

加：どんな企画を実施したんですか？

山田(以下山)：受講生が３つの班に分かれて正信偈講座、傾聴活動、子ども会を実施しました。ちなみに広報の一環で京都駅前でチラシも配った班もありました。

西村(以下西)：私、チラシ配っているのを見ました！

加：伝道院にも『法座を開こう』というカリキュラムがあるんですよね。

小：夜座と伝道院報恩講をしました。

加：西村さんは前年の夜座へのお聴聞が伝道院へ進むきっかけにもなったと聞きましたが、自分が夜座を開く、ご法話する側になってどうでしたか？

西：お参りしたときと同じように自分たちができているのか心配でとても緊張しました。ただ、伝道院報恩講では「夜座でご法話されてましたよね」と話しかけてもらったりもしました。

加：法座が減っている中で、一人でも多くの人にみ教えに触れてもらう機会そのものを作ることがこれからの布教使としての役割になる、そのことを学ばれているんですね。



加：では、勉強する中で苦労したことはありますか？

西：原稿を書くときに自分の書きたいこと、言いたい事の根拠が御聖教のどこにあるのかが不確かで本当にそのことを書いていいか悩みました。

小：ご法話の題材や自分が伝えたいことを例えるエピソードを見つけるに苦労しました。

山：教学の理解が追いついていませんでした。どこまで語って大丈夫なのか、区切りができていないということがわかりました。

土：それまで自分の持っていた阿弥陀様のイメージが否定されるようなときは辛かったです。

加：指導されて印象に残ったもの、よかったことはどんなことですか？

小：例えのエピソードは全部を話すのではなくて、ご法義と重なる必要な部分だけにそぎ落とすことを何度も指導され、それがよかったです。

土：自分の言いたいことや個性を伸ばしてくれる指導が合っていました。

山：言いたい事が頭の中にぼんやりとはあるけどピタッとくる表現が出てこないとき、一緒に言葉を探してくれる指導が自分には合っていました。

西：自分の原稿で言いたい事やなぜその表現になるのかを深堀りしていただいたのがすごく助けになりました。



伝道院（右）
中央仏教学院（左）



加：生活面も少しお聞きしたいと思います。伝道院では前・中・後期の３期のうち、中期と後期の間に少しまとまった休みがあるんですね。

西：10 月中旬から年明け１月下旬までですが、この休講期間があったお陰で講義で聞いたことの整理ができたり、先生たちから勧められた本を読むことができました。

小：少しゆっくりとお聴聞もできました。

加：伝道院は全寮制で平日の食事は提供されますが、中仏は自宅から通学とですよね。食事はどうされていましたか？

土：買って食べたり、外食したりですかね。

山：それぞれですよね。私はお昼はお弁当を作って持っていってました。

土：そう言えば、山田さんはアルバイトもしていましたよね。

加：アルバイトしながら布教使任用！！スゴい！！

加：最後に、これからの布教にあたっての目標や目指しているものを教えてください。

西：子ども向けのご法話をしたいです。本願寺のキッズサンガで子どもに向けてご法話されているのを聞いて、自分もしたいと感じました。

土：自分の法話を自分も楽しめるようになりたいです。

山：法話を聞きにこられた方が和んだり、癒されたりということも大事にしつつ、その方の価値観が変わるということも大切にしたいです。

小：分かりやすい話を目指して情熱をもって頑張りたいです。

加：なんだか私も布教使に任用されたころの初心を思い出しました。今日はお話聞かせてくださいましてありがとうございました。

中央仏教学院、伝道院ともに 2026 年度も開講予定です。開講期間など詳しくは下記ＱＲコードのホームページをご参考ください。

中央仏教学院 HP

伝道院 2026 年度募集要項 HP



京都に響いた「千人の聲」会場全体が一つとなる

勤める喜びを次の世代へ

――――「千人聲明（せんにんしょうみょう）」に参加して



令和8年1月8日、京都にて開催された「千人聲明」。僧侶約300名、観客約400名が集い（オンライン含む）、聲明と雅楽の響きを共にする一日となりました。
本稿では、企画団体「響音」代表者へのインタビューと、参加者としての実感をもとに、この一日を振り返ります。



『新制御本典作法』をみんなでお勤めしました

なぜ、いま「千人聲明」だったのか
ー「響音」代表、水谷了義さんに聞くー

ー「千人聲明」を企画された思いをお聞かせくださいー

大法要の機会がこの先10年以上ない中、「法要を勤める慶びや楽しさ」を体験する場が 次世代に十分に残されていないのではないか。 そうした問題意識が、今回の企画の出発点でした。聲明が得意な方も、そうでない方も、お勤めの楽しさや旋律の美しさ、雅楽の荘厳さを体感し、 勤式などへの憧れにつながれば――
そんな願いが込められています。



また、一般の方に対しては、先立たれた方を偲んでお勤めする法事の場での読経だけが全てではない、ということを知っていただきたかったです。



～響音（きょうおん）～

今回の千人聲明を企画。
京都在住の僧侶を対象とした、楽しく聲明と雅楽の研鑽を積むための団体です。
特別法務員の資格の有無は問わず参加できます。

【代表 水谷了義さん】
順照寺（京都教区上東組）衆徒



会場を満たした「楽しさ」の空気

ー今回のイベントの手ごたえをお聞かせくださいー

多くの方々から 「感動した」「すごかった」「また勤めたい」「また来たい」というお声をいただいております。実際、 想像以上にまとまりがあったことを実感しております。そして 何より、演者が「楽しんで勤めている」空気が会場全体に満ち溢れていました。出演者全員が笑顔で帰ってくださったのが一番の喜びであり、企画した私たちにとって、大きな手ごたえでした。



クライマックスには、多くの華葩で賑やかに



東海教区からの参加者

ー東海教区の読者へメッセージをお願いしますー

今回、東海教区の方々には多くのご参加いただきました。本当に心強いお力添えを賜りましたこと御礼申しあげます。この記事を読んで興味を持たれた方は、参加された方に是非お話を聞いてください。そして次回は一緒にお勤めしましょう。みなさんの参加をお待ちしております。

ジャータカルタシールガチャも好評でした

ジャータカルタシールガチャガチャブースを設置して、観客・僧侶みなさんに楽しんでいただけました。





余韻とともに　―千人聲明に参加して―

今回の千人聲明に参加し「ともに勤めること」の楽しさを改めて実感しました。
多くの僧侶が声を合わせることで生まれる一体感は、その場に身を置いてこそ味わえるものでした。また、上手に勤めること以上に、同じ時間と場を共有すること自体が、すでに尊い法要なのだと感じました。
経験や力量の違いを超えて、ともに声を出し、 響きを重ねることに意味がある――
そのことを体ごと教えられた思いがします。



出勤僧侶の集合写真

法要の形や機会が変わりつつある今、このような催しは、日頃お寺やお勤めになじみの薄い方にとっても、自然に法要と出会うご縁となるものだと感じました。そうした意味でも、今回の体験は印象深いものでした。



トークセッションの様子

そして私自身にとっても、今回の体験は、法要の未来について考え続けていくための、一つの確かなきっかけになりました。千人聲明で感じたことが、これからの活動に確かな学びを与えてくれました。（広報部　日野道応）

~声(読者のページ)~

『大切なメッセージ』

「方言は身につけたアクセサリー外したければ外せばいいけど捨てちゃだめよ。それにはあなたがそこで育ったという大切なメッセージが刻まれているんだから」

これは、名探偵コナンという漫画に出てくる灰原哀という小学生の台詞だ。転校してきたばかりの同級生が、うっかり関西弁を話して恥ずかしがる場面でのことだ。コナンファンの間では、有名な名台詞である。

私も大阪出身で、引っ越してきた当初、自分が話す関西弁が恥ずかしいと思う時期があった。言葉がキツく聞こえてしまわないかと、少し遠慮しながら話していたのが今では懐かしい。

育った場所によって身につくといえば、手を合わせることやお念仏をすることもそうだろう。

毎朝本堂に手を合わせてから登校する我が家の子ども達だが、下の息子は今から「お坊さんには絶対にならない！！」と豪語している。

私としては、それでもかまわないと思う。



おかげさまで身についたお念仏は、外すも外さないも自由だ。私がどれだけ背をむけようとも、決して私を捨てることがないのが阿弥陀如来である。

お坊さんにならなくても、合わさる手の中に、お寺で育ったという大切なメッセージは刻まれている。

~お坊さんの書棚~

『ぼっちのままで居場所を見つける』

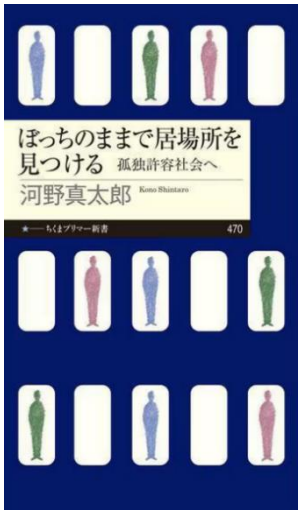
孤独許容社会へ　著：河野真太郎　ちくまプリマー新書

近年、「孤独」は社会問題として語られることが増えました。本書は、その孤独という言葉を丁寧にほどき直し、孤独には悪い孤独と良い孤独があることを示します。

著者によれば、孤独が一様に否定的に語られるようになったのは比較的最近のことです。『ロビンソン・クルーソー』『葬送のフリーレン』や『シャーロック・ホームズ』など、多様な物語を行き来しながら、人がどのように孤独を発見し、そこからどのような価値を見いだしてきたのかが語られます。

自然の中での逍遥や静かな自室の時間として語られる「良い孤独」は魅力的に映ります。しかし著者は、そのような孤独が成立するためには、実は経済的安定や社会的つながりといった基盤が必要であることにも目を向けます。

本書の終盤では、『ライ麦畑でつかまえて』のホールデンが語る「崖から落ちそうな子どもを受け止める存在」が引かれます。それは、社会からこぼれ落ちそうな人を支えるセーフティーネットの比喩とも読めるでしょう。



孤独を許容できる社会とは、誰もが安心して孤独を引き受けられる社会でもある。

そんな包摂的な社会のあり方を、本書は提示しています。

~編集後記~

今号をもちまして2011年に就任した広報部員を卒業することになりました。広報部員としての15年で沢山の思い出がありますが、何よりも原稿の締切が・・・それでもこの日を迎えられたのは広報部員や事務局のご尽力、そして読者の皆様がいてくださったからです。改めて、心よりお詫びと御礼を申し上げつつ、今後は一読者として「とうかい」を楽しみにしたいと思います。



広報部　加藤